

## 実技講座

- ①鑑賞することで表現が豊かになり、制作することで観る目が養われる。
- ②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深める。  
この2点をテーマに掲げ、今年度も実技講座が開催された。

### ■<文人の夢・田能村竹田の世界>展普及事業

実技講座「墨と和紙で絵画」

日 時＝平成17年10月9日・10日・15日・16日  
10：15～16：15

講 師＝浅見貴子（画家）

場 所＝当館実技室・展示室

参加者数＝16名

今年の実技講座は「文人の夢・田能村竹田の世界」展の開催に合わせて計画された。まずは、この講座のタイトルが「水墨画」ではないことに注目したい。そこには、先入観なしで墨と和紙が持つ魅力と豊かな表現の可能性を感じてもらいたいという、講師の画家、浅見貴子さんと美術館スタッフの願いがこめられている。

初日、参加者は浅見さんの作品を見ながら制作についての話を聞き、イメージを高めた。その後、展示室で田能村竹田の作品をじっくり鑑賞した参加者は、文人画の最高傑作を前にして強い刺激を受けた様子であった。午後からは堰を切ったように作業が始まる。紙に墨が染み込み、滲む様子を確かめながら素材との対話を楽しむ参加者達。今回用意した和紙は、作品用の越前雲肌麻紙と鳥の子紙の他、奉書紙、書道用半紙などで、それぞれが違った性格を持っている。また、水の使い方によっても墨の表情は千変万化し、簡単に思い通りの表現が得られない。それでも教わるのを待つことなく、次々と挑戦を続ける参加者の様子には驚かされた。和紙・墨・水を互いに響き合わせ、様々な表現を紡いでいくことは、それだけ魅力的な体験だったのではないだろうか。

2日目に作品制作に取り掛かってから週を過ぎ、3日目、4日目と参加者の熱意は最後まで衰えることがなかった。完成した作品をパネル張りし、実技室で展示、鑑賞することで講座を締めくくったが、どの作品にも描くことの喜びが生き生きと表現されていたように思う。そして、再び竹田の作品を鑑賞した参加者は写真を見るだけでは伝わらないデリケートな部分にも視点を置いて、表現された世界の息吹を感じることが

できたはずである。確かな手応えの感じられる実技講座であった。



実技講座<墨と和紙で絵画>制作する参加者



アドバイスをする講師の浅見貴子氏（左端）